

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570101636		
法人名	医療法人 岡田整形外科		
事業所名	グループホーム一喜一喜		
所在地	宮崎県宮崎市大字浮田3318番地		
自己評価作成日	平成30年7月15日	評価結果市町村受理日	平成30年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.nhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyouCd=4570101636-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年8月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の要望に応じて、季節の花見ドライブやイルミネーション見学、雑山見学、ショッピングセンター買い物、初詣、温泉・イルカショーツアー等様々な外出行事を企画している。季節に合わせた食事も提供し、そうめん流しや秋刀魚昼食会で旬の食材を堪能されている。入居者の希望をくみ取り、うどん・ラーメン屋や、喫茶店外食等も企画している。
職員は毎月行われる内部研修に参加し、キャリアアップを目指す取り組みを行っている。必須の外部研修にも計画的に参加し、入居者のケアを行う上で必要なスキルを身に付けている。
併設施設の看護師が来所し、日常的に入居者の状態観察を行っている。毎日看護師に入居者の状態を相談・情報交換を行い、介護と医療が連携しているため、特変時に速やかに医療的アプローチが行えている。
「なぜメモ」を活用し、ケアの気づきの情報共有や職員・入居者への感謝の気持ちを表し、職員同士のやりがいや、チーム力アップにつなげている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に生活しやすい環境や施設が揃っており、利用者がこれまでの生活習慣をあきらめずに済むよう地域資源の活用や支援の工夫をしている。法人の関連施設に病院、介護サービス事業所があり、互いの特色を生かして研修会を開催したり行事や利用者支援の協力体制を築いている。外部研修にも職員全員が参加できるよう配慮し、スキルアップにも取り組んでいる。管理者は、働きやすい職場づくりやメンタル面の配慮に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をグループホーム内に掲示し、全職員名札に理念の札を入れており、いつでも確認できる状態にしている。入居者のケアに関して課題が上がった時は、理念を振り返り、ケアの方針を決めている。	「地域と共にその人らしく」という法人の理念を職員全員で共有し、常に確認できるよう身に付けている。毎年、理念を柱としたホームの目標を掲げ日々のケアの実践につなげるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物等で地域に出かけ、地域の方々と挨拶や会話を交わす場面を作っている。地区の祭りや敬老会に出向いたり、法人の祭りや催しに地域の方を招いたりして交流を持っている。	地域の方を招いて認知症講座を開催したり、地域の祭りや行事に参加している。慰問では幼稚園児との交流や地域ボランティアの演奏などで交流を深めるよう取り組んでいる。	祭りや催しなどでの地域との交流はあるが、地域資源や近隣との日常的なかわりが少ない。ホームのあり方を理解し協力体制が築けるよう、地域とのつながりが深まることを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方々に施設の説明と共に支援の方法や事業所の方針を説明している。 認知症サポーター養成講座や認知症予防教室を法人で開催し、地域の方に参加して頂いたり、地域での講座に出向いたりして、認知症ケアの推進を目指している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催している。行事や研修の報告、是正処置の報告、入居者の状況報告等行っている。構成員には民生委員や地域包括支援センター、地区社協会長等参加していただき、意見をいただいている。	運営推進会議では行事や生活の様子などを報告し、認知症ケアの取組やリスクマネジメントについての話し合いを行い、意見を生かした取組がなされている。構成員を増やし様々な意見を参考にサービス向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	申請や提出書類等について不明点がある時は、直接窓口へ足を運んだり、電話で尋ねたりして情報交換行っている。 運営推進会議にも地域包括支援センター職員に参加していただいている。	分からない事や問題が起きた時は、市町村に電話したり窓口に出かけて相談し解決に繋げている。認知症サポーター養成講座の開催について連絡を取り合うなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、職員研修として身体拘束・権利擁護・プライバシー保護について内部研修を行っており、全職員周知している。外部研修にも施設を代表して職員が参加している。日中は出入りに施錠をせず、いつでも外出できるようにしている。職員間で定期的にケアの見直しを行い、身体拘束のないケアを実践している。	身体拘束についての研修に毎年参加し、全職員が参加できるよう配慮している。内部研修では、職員が交代で講師を務め人に伝えることで理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底	毎年、職員研修を行っている。県が開催する虐待防止の研修にも参加している。毎月「振り返りシート」を記入し、スピーチロック等自身の声掛けの仕方を振り返る機会を設けている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している入居者がいる。定期的ではないが内部研修を実施している。制度の詳細について一覧表を後見人の方に準備して頂き、入居者の居室に掲示している。後見人の方と情報交換している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間を設け、重要事項説明書・契約書の説明を行い、途中理解度を確認しながら、質問があればその都度お答えしている。利用途中で介護報酬の改定や重要事項説明書の変更があった場合は、速やかに説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時やサービス担当者会議の場にて要望や意見を尋ねており、収集した意見は「なぜメモ」や送りノート・支援経過等で周知している。年に1回の家族会の際には管理者・職員・理事長も参加しており、家族同士の交流もあり、情報交換できている。	面会時や日常的な会話の中から意見を聞いたり、くみ取ったりしている。家族に年1回、アンケートを配布したり食事会を開いて意見を出せる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、管理者・代表者へ業務日誌を報告し、入居者の状況報告や職員の話を聞く機会を設けている。毎月のミーティングに管理者が出席しており、職員間の情報・意見交換の場に参加している。定期的に管理者が職員面談を実施しており、職員の悩みや希望・目標等直接尋ねている。	全職員が気づきや疑問をメモに残し事務所の掲示板に貼り意見を出している。新人職員からの意見で、慣習化に気づくこともあり運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、部門責任者が職員面談を行い、職員のモチベーションや悩み、意欲等把握する機会を設けている。責任者はその結果を代表者へ報告している。現在、業務改善を行っており、毎月のミーティング時に業務内容やケアの方法等検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間行事計画を立て、毎月法人内部で研修を実施している。全職員が役割分担し、担当の研修について周知している。外部研修については管理者が職員にふさわしい外部研修に行けるよう計画を立てている。認知症介護実践者・リーダー研修へは毎年計画的に参加していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	キャラバンメイトやグループホーム連絡協議会、学習療法の集まりへ職員を参加させ、他事業所との交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人の下へ足を運び、どのような生活をされているか、現在の悩みや要望を聞き取るようにしている。入居後はセンター方式のD-4シートを活用し本人の思いや言動をくみ取り、より深く、背景を探るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や初回面接の際、ゆっくり時間を設け、家族の悩みや現状を詳しく聞き取るよう努めている。入居前には家族との面談を行い、サービス担当者会議を開催し、本人・家族・職員・関係部署職員の参加を募り、情報交換している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に事業所などの情報提供や直接本人家族から今必要な希望の支援を聞き取り、自事業所でサービス提供困難なケースについては介護支援専門員などと相談し適切なサービスが受けられるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から利用者の今までの生い立ちや思いを聞き、本人が得意だった事などをヒントに、職員が分らない部分は人生の先輩である入居者に尋ねながら家事等を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に面会に来ていただき、入居者の状態報告を行っている。面会が困難な方には電話にて状況報告を行っている。年1回アンケートを実施し、意見をいただいている。食事会や外出行事に家族も参加していただき、入居者の方と一緒に思い出を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に通っていた同法人内の通所サービスに顔を出し、馴染の方と対面する機会を提供している。地域の祭りや敬老会に出席し、近所の方との交流の場を設けている。家族以外にも元民生委員の方、近所の方の訪問も見られ、継続した関係が保たれている。	知人や友人の訪問があり、利用者の状態に合わせて、居室へ招いたりホールで対応するなど配慮している。家族が遠方の場合は電話や手紙の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂やリビングでは一人きりにならない様、他入居者と一緒に過ごせるようレイアウトを整えている。利用者同士の関係を把握し、食事の席も気が合い、話が弾むような配置にしてコミュニケーションがとりやすいよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた入居者は、初盆に職員が自宅訪問している。他施設へ転居された方は、職員が顔を見に行ったりと継続した関わりを持つよう努めている。退去された家族には法人の夏祭りに声を掛け参加して頂いている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なアセスメントを実施し、日常のコミュニケーションを取る中で、本人の希望や意向を把握している。困難な場合は、家族から情報収集を行い、生活歴や趣味嗜好を参考にしニーズの発見に努めている。	入居前は自宅を訪問し生活状況を把握している。初回アセスメントはセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメント)を活用し思いや意向の把握に努めている。伝えることが困難な場合は、行動や発言から察して検討するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族やケアマネジャー等にこれまでの生活歴や暮らし方を聞き、センター方式に記入して頂いている。入居後も本人や家族に直接尋ね、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や心身状態について個別記録・観察記録・排泄チェック表に記入している。入居初期段階ではD-4シートを活用し24時間の入居者の心身の状態・言動等状態観察行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に対して、面会時直接現在の状況についての評価や、ケアプランに関する要望を尋ねている。ミーティングの際にスタッフ間でケアについて意見を出し合い、モニタリングを行っている。	本人・家族から意向を確認し介護計画に反映している。毎月のモニタリングやケアの中での気づきを話し合い、より良く暮らすための介護計画を作成するよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアプランの実施状況や本人の言動を記載している。普段と違う状態や特変に関しても記載している。また、ケアに関しての気づき、家族からの要望等情報周知が必要な案件については「なぜメモ」に記載し、周知・検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態により、病院受診や訪問診療・看護等依頼している。入居者の要望に沿えるよう、職員の勤務体制を変更したり柔軟に対応している。外食や買い物、ドライブ等希望者がいればその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者と一緒に近所のスーパーやお菓子屋に買い物に行ったり、地区の会食会や文化祭に参加していただいたりと地域の方と交流しながら生活出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望される方については、入居後も定期的に受診していただいている。受診の際はグループホームからの情報提供書を作成し、健康状態やADL、グループホームでの生活の様子を報告している。	かかりつけ医は本人・家族の希望する医療機関を受診し、その際は情報提供をしている。協力医の受診は職員が付き添い、結果はその日の内に家族に報告している。歯科や皮膚科の訪問診療もあり適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェック・問診を行い、状態観察を行っている。併設施設の看護師が来所し、入居者の状態把握を行っており、特変等必要があれば医師へ状態を報告し受診や往診等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供書を作成し、グループホームでの生活の様子やADL、介助の状況等を入院先の病院へ伝えている。入院中も足を運び、入居者の状態や退院の見通し等担当者に尋ね情報収集に努めている。退院が決まると、入居者の退院後の生活の注意点やADL等電話や直接確認し、退院後の生活がスムーズに行えるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に管理者・医師と面談を行い、看取りに関する指針の説明をした上で、本人・家族の意思を確認している。グループホームでの看取りを希望される方は、同意書に記入をしていただく。状態が重度化した場合も、意思の再確認を行い、医療の方針を話し合っていく。	契約時に重度化や終末期のあり方について意向を確認し、看取りを希望される場合は指針を説明し同意を得ている。急変時の対応や蘇生の希望を確認し方針を共有している。入居時に説明できなかった時は、時期を見極めて話し合えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し、定期的に心肺蘇生・AED使用・緊急時の対応等の内部研修を行っている。外部研修にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施しており、火災と水害を想定し行っている。訓練には消防署職員の立ち会いや地域住民の参加もして頂いている。	火災や水害に対して、日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。利用者や地域住民も参加し気づきや改善点を次の訓練に生かしている。備蓄品を管理し法人全体の防災訓練に参加している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念にも掲げており、入職してまず最初に指導を行っている部分である。毎日の自分の声かけを振り返れるよう、業務日誌にチェック欄を設けている。毎月振り返りシートを記入し、自分の接遇や声掛け、ケアに対しての振り返りを行い、改善していくよう取り組んでいる。	職員は互いに、言葉遣いや接し方について気づいたことを話し合ったり、振り返りシートを活用しケアのあり方を見直している。新人職員は、接遇の研修を受け基本から身につけるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のコミュニケーションの中で、行きたい所や食べたいもの等をお聞きし、実際に食事で提供したり、ドライブに出かけたりニーズを反映させている。入浴や体操、レクリエーション等強制にならないような声かけをし、自己決定出来る様な問いかけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候や入居者の状態を考慮した上で、入居者がやりたいことを尋ねて、日々の予定を立てている。毎月の行事に関しては入居者の要望を取り入れて計画している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出の際は、入居者の方と一緒に洋服を選び着て頂いている。希望があれば化粧やマニキュアをしておしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	切り込みや盛り付け、おにぎり作り等入居者と一緒にに行っている。買い物の際に入居者の好きな物を購入し、食事の際に提供している。希望時にはラーメン屋やうどん屋へ行き食事したり、昼食会で希望のメニューを提供している。	主菜は関連施設の厨房から運ばれてくるが、ご飯・みそ汁はホームで調理している。対面キッチンで、一人ひとりの力量に合わせて野菜を切ったり盛り付けや配膳下膳を一緒に行っている。菜園の野菜を収穫するなど食事が楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスについては栄養士に相談しアドバイスをもらっている。水分量は医師の指示により、摂取量の少ない方へはお茶以外にジュースやスポーツドリンクを提供している。その人にあった食事形態で刻みやソフト食、ミキサー食等対応し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態、口腔ケア能力を把握し、出来る部分はしていただけるよう支援している。自立の方以外はその人のレベルに応じ、口腔ケアの声掛け、付き添い、磨き直し、全介助等対応し、口腔内の清潔が保たれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時は排泄チェック表を活用し、その人の排泄パターン、尿量、排便間隔等把握していく。パットの汚染状況も把握し、なるべく汚染しない様トイレ誘導の間隔を調整している。	排泄チェック表を用い、一人ひとりの状態に合わせた誘導の時間や水分補給の目安としている。パターンを把握することで排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・おやつ以外にも、入浴後や体操後、外出後に水分を提供し、水分摂取量が低下しないよう努めている。毎日体操や散歩等支援し、身体を動かして排便を促すようにしている。おやつ時に牛乳・茶にオリゴ糖を混ぜて提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や状態に合わせて、入浴を実施している。浴槽に浸かれない方は、ストレッチャー浴や機械浴で対応している。冬場にはゆず湯や入浴剤等使用し、入浴を楽しんでいただいている。異性の介助を嫌がる方には、同性の職員が対応している。	基本的に午前中に入浴を支援しているが、本人の希望に合わせて時間を変更している。入浴剤を使用したり、湯の温度や入浴方法、場所を変えて同敷地内のデイサービスで入るなど、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっておらず、本人の体調や希望を尋ね就寝の声かけを行っている。「まだ眠くない。テレビを見たい」等希望される方には、ホールで過ごしていただいている。寝具調整・室温調整を行い、安眠できる環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食時服薬介助を行う際、薬情を確認している。血圧の薬を服用している方で医師の指示がある方は、服薬前に血圧測定をし、異常があれば医療へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の得意な事や好きな事を見つけ提供することにより、喜びや達成感を持てるよう支援している。料理が得意な方は一緒に食材の切り込みや盛り付け、食器洗い等して頂いたり、お菓子が好きな方は近くのお菓子屋さんへ買い物に行ったりと気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週2回買い物、毎週日曜日はドライブ等決め、順番に出かけている。毎日散歩へ出かけるよう支援している。季節に応じて花見のドライブや外食、温泉、バスツアー等企画し家族も参加していただき外出支援している。	一人ひとりのその日の希望に沿って、近くのお菓子直売所やスーパー、喫茶店、散歩などに日常的に出かけている。遠方に出かける際は、事前に計画し家族の協力を得て普段と違った食事や温泉・行楽などに出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、施設で預かっている。本人の希望により、自身で管理されている人もいる。買い物時やパンの移動販売来所時は預り金から好きな物を選んで買ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛に手紙が届いた時は、家族や職員と一緒に返事を書いて送り返している。電話も本人希望時は掛けて頂いたり、施設にかかってきた電話を取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や掲示板は季節に応じた装飾をしている。7月には笹の葉に飾り付けをしたり、3月には雛人形を飾ったり、季節感を感じられるよう対応している。トイレは小まめに清掃し、臭いや汚れが残らない様配慮している。室温・湿度調整をし過ごしやすい環境を整備するよう心掛けている。	台所やトイレ、浴室は整理整頓・掃除がされ明るく清潔で気持ち良く使用できるよう努めている。季節行事の飾り付けなどで四季を感じられるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になりたいときは居室で、新聞を読んだり、塗り絵をしたり、テレビを見たり、横になったり出来る様支援している。気の合う方と過ごせるよう、居室を尋ねたり、同じテーブル席にしたりと配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた家具やベッド、茶碗・箸等持ってきてもらい、なるべく自宅の環境に近づけるよう整備している。家族の写真や馴染の絵等を飾り、安心できる環境づくりをしている。	居室は本人と家族が相談し、使い慣れた家具や家族の写真、自分の作品等を置き、その人らしく過ごせる部屋にしている。また、居心地よく過ごせるようベッドや家具の配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方に分り易いよう、居室、トイレ、洗濯室、浴室等目印や看板を付けている。自分で飲み終わったコップを台所へ持って来られ、洗ってくださる方もいる。職員は本人の出来ること取り上げない様、見守りながら支援している。		